

企画展

おかね道中記 — 旅で使う貨幣 —

2012年11月10日(土)～2013年5月12日(日)

ごあいさつ

古都観光のため、交通費 1万3000円、宿泊費 6000円、お土産代 600円 ……そんな旅の記録を書いたことはありませんか？

江戸時代にも旅人は道中の支払いなどを、大井川渡し 320文、宿泊代 200文 ……と記録していました。

古代に国家が銭貨を発行して以降、貨幣制度の移り変わりとともに、旅におけるお金の使われ方も変化してきました。

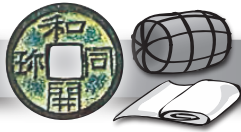
古代や中世の旅は、主に年貢の運搬や商売のためで、中世には年貢の換金や商品の売買のための市が交通の要衝で発達するようになります。江戸時代後期になると、交通網の整備や農村への貨幣経済の浸透により、庶民の寺社参詣・物見遊山の旅が盛んになります。

本企画展では、当館で所蔵する貨幣や旅に関する古文書、絵画などにより、古代～近代初期までの旅で、お金がどのように使われていたかをご紹介します。

日本銀行金融研究所 貨幣博物館

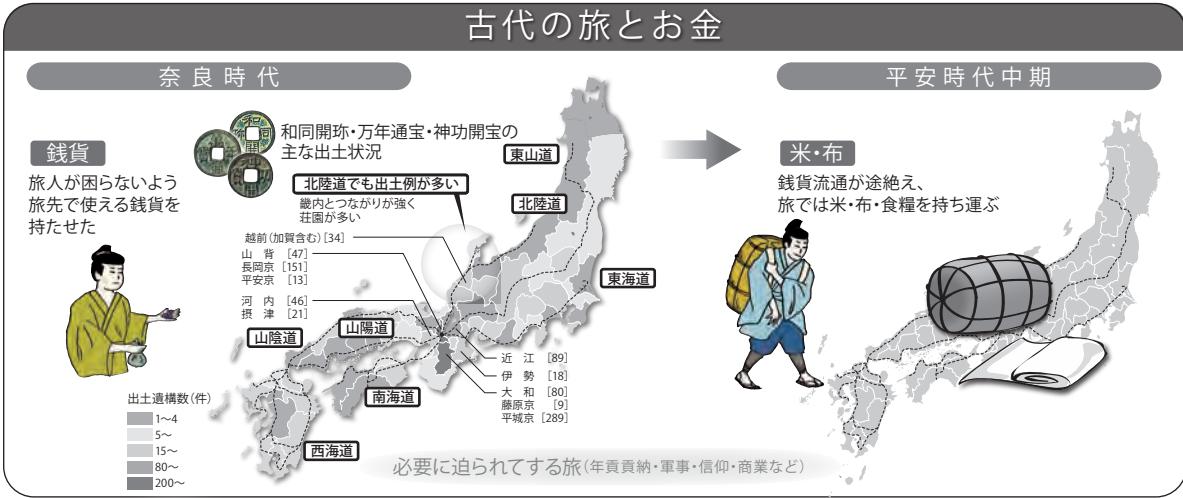
旅で使うお金の移り変わり

		主な旅の目的	旅で使うお金	お金の発行主体	主な旅のスタイル			
					交通路	宿泊	移動	食事
古代	朝廷・貴族	寺社参詣 職務(地方への赴任)	銭貨(10世紀半ば発行途絶える) 米、布	朝廷	五街道・宿駅の整備 関の設置	寺社 野宿	徒歩 馬 牛車 船 輿	朝晩 2食
	庶民	労役(年貢の貢納・防人) 商業						
中世	朝廷・幕府	寺社参詣 職務(地方への赴任) 軍事	銭貨	(渡来銭)	東海道の整備 関銭(通行料)徴収	寺社 宿 旅籠	徒歩 馬 牛車 船 輿	朝晩2食 →3食 (中世後期)
	庶民	年貢の貢納 商業 寺社参詣						
近世	幕府・藩	將軍上洛 参勤交代など	銭貨の発行・配付 金貨・銀貨・銭貨 三貨間の相場変動有	幕府	五街道・宿駅の整備 関所の通行料撤廃	本陣 旅籠 木賃宿	徒歩 船 馬 駕籠	朝昼晩 3食
	庶民	商業 寺社参詣・物見遊山など	娯楽・レクリエーション性が強く (18C末～)農村への貨幣経済浸透	全国共通通貨の発行・普及で旅が容易に		道が整備され泊まる場所が確保されるように		
近代(初期)	政府	公用(巡幸など)	紙幣 硬貨(金・銀・銅貨)(為替) 貨幣統一	硬貨:政府	鉄道網の整備	旅籠 木賃宿 旅館 ホテル	鉄道 蒸気船 人力車 馬車	朝昼晩 3食
	庶民	商業 観光など		紙幣:政府・国立銀行から日本銀行へ				



古代 — 銭貨の発行と交通路の整備 —

律令国家は、交通路を整備し、税の運送や労役のために旅をする人に和同開珎(708年発行)を持たせた。10世紀半ばに、国家は銭貨発行をやめ、銭貨流通は途絶えた。旅人は、食糧などの必要物資を持ち運び、銭貨の代わりに米や布を使った。



中世 — 銭貨流通の浸透と旅での支払い —

中世になると、交通の要衝では市や宿が発達した。旅人は、銭貨を使って、旅先で必要なものを手に入れられるようになり、重い物資を運ぶ必要がなくなった。



15・16世紀の旅とお金

室町時代には、交通の発達につれて民間の宿が増加し、宿泊や人馬を供給する体制が整った。旅人は、銭貨を払うことで、旅先でさまざまなサービスが受けられるようになった。

◆東寺使者の年貢徴収の旅

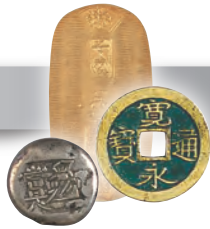
東寺の僧5名と人夫
1419(応永26)年 2月15日～20日
京から兵庫に行き、周防国美和荘(山口県岩国市)からの年貢を受取り、京へ帰る



◆醍醐寺僧の東国への旅

醍醐寺の僧2名
1564(永禄6)年 9月20日～1565(永禄7)年 10月28日
京から越後を経由して、東国を旅し、京へ帰る

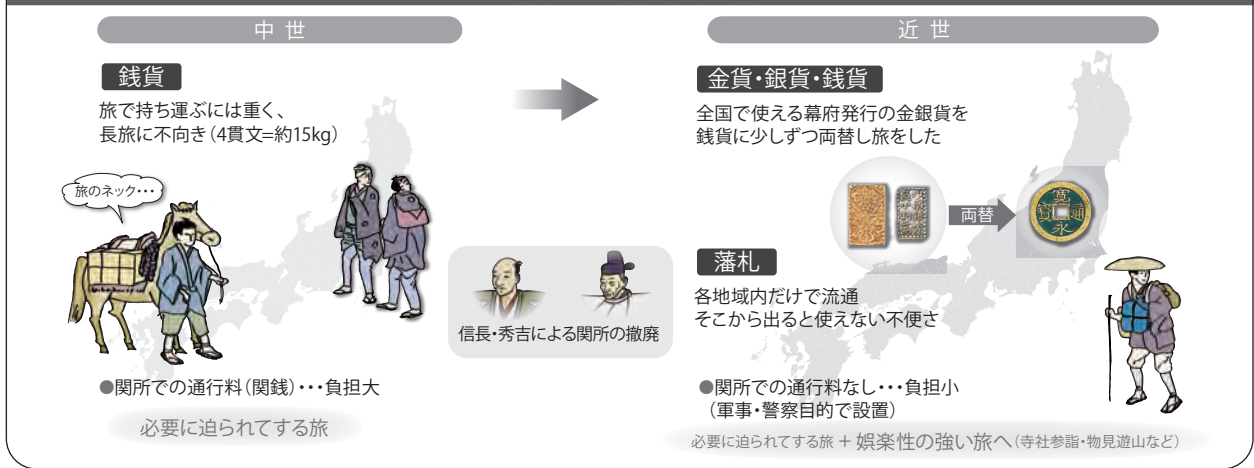




近世 — 全国で使えるお金の発行と旅 —

江戸幕府は全国で使える金貨・銀貨・銭貨を発行した。
人々は、金・銀貨を少しずつ銭貨に両替しながら、旅ができるようになった。

近世の旅とお金



江戸時代後期(特に19世紀初頭)になると、農業における商品生産が広がり、農村へもお金が行き渡るようになった。

また、舟運・旅宿の便もよくなり、名所図会などのガイドブックも盛んに出版された。
そして、全国各地の寺社参詣を名目として名所旧蹟を巡る旅が庶民の間で盛んになった。

● 参詣の旅の楽しみ

◆ 伊勢神宮への道中の支払い

道中の名産品を食べ、景色を楽しみながら伊勢へと向かった。

名産品を
食べる
昼食 64文・まんじゅう8文
あべ川もち 25文
わらび餅 32文

泊まる
旅籠1人1泊2食 200~250文

「木曾海道六拾九次之内豊川」(東京国立博物館所蔵) 旅籠の様子

● お金を持ち運ぶ

◆ 両替をしながら旅をする

手持ちの金貨・銀貨を銭貨に両替し、食事代などを払った。



◆ 財布

旅人は盗難にあわないよう、金銀貨と銭貨の財布を使い分けるなど工夫した。





近代初期 —通貨制度の統一と移動手手段の発達—

明治政府による通貨制度の整備の中で「円」が誕生し、1885年には日本銀行券が発行された。
 全国で使える紙幣が普及したことで、旅で持ち歩く貨幣も金銀貨に比べ軽量化した。

近代の旅とお金

近世

金・銀・銭貨
 両替相場は変動し、
 地域差もあり旅では不便

紙幣(藩札): 藩札は各藩通用のため、旅では
 普段使っている藩札は利用できず

必要に迫られてする旅 + 娯楽性の強い旅へ(寺社参詣・物見遊山など)

近代

全国通用紙幣
 全国通用紙幣の発行により
 通貨価値の安定

1銭 5銭 20銭
 一段と旅がしやすく

【主な展示資料】 ※展示期間中、一部の資料については展示替えを行います。

資料名	年代
古代	
古代に使われたお金	
古代銭貨(和同開珎ほか)	8~10世紀
続日本紀	8世紀完成
中世	
中世に使われたお金	
渡来銭(開元通宝・皇宋通宝ほか)	7~15世紀
鑄写銭	12~17世紀
石州銀	16世紀
甲州金	16世紀
蛭藻金	16世紀
〈参考資料〉賽銭箱	—
近世	
近世初期に使われたお金	
慶長金銀貨(小判・丁銀・豆板銀)	1601(慶長6)年
寛永通宝	1636(寛永13)年
近世に使われたお金	
小判・一分金・二朱金・一朱金	江戸時代
丁銀・豆板銀・二朱銀	江戸時代
寛永通宝・文久永宝	江戸時代
銭箱(百文箱)	江戸時代
(東海道道中間屋名本陣名書上)	1721(享保6)年
寛(垣内宿諸品相場定)	1830(文政13)年
讃州象頭山真景	江戸時代
成田山参詣小金山之図	1855(安政2)年
王子稻荷参詣群集之図	江戸時代
奥州松島風景	—
宇治橋	—
宇治橋	—
(宇治橋投銭の図)	—
扇子(宇治橋投銭の図)	—
宇治橋投銭を受けた綱	—
伊勢土産 あいの山 うちわ絵	—
(伊勢間の山 お杉お玉の図)	—
(御蔭参の図)	1867(慶応3)年頃
御蔭参りひしゃく	1830(文政13)年使用
伊勢名所御かけ参り	江戸時代後期
おかけ参り幟	—
御蔭参驛路之賑	1867(慶応3)年頃
江戸名所之絵	1803(享和3)年
東都名所古跡神社仏閣独案内記	1843(天保14)年
大井川徒行渡図	1860(万延元)年
大井川川札	—
道中入用帳	江戸時代後期
銭両替看板	江戸時代
浪花名所図会 順慶町夜見世之図	江戸時代後期
道中小遣帳	1823(文政6)年
道中日記	江戸時代後期
五十三次内程かや	1854(安政元)年

從加州金澤至武州江戸下通山川駅路之図	1712(正徳2)年
從甲府武州内藤新宿迄駄賃帳	1801(享和元)年
木曾街道六十九次之内 奈良井おろく 善吉	1852(嘉永5)年
脇差型貨幣入れ	江戸時代
鑄型貨幣入れ	江戸時代
胴乱	江戸~明治時代
早道	江戸~明治時代
携帯用紙幣入れ	江戸~明治時代
東海道五十三次細見図会 川崎	江戸時代後期
東海道 程ヶ谷 其二	1863(文久3)年
新板浮絵忠臣蔵 第五段目	江戸時代末期~明治時代初期
御上使様就御通諸色値段付帳	1761(宝暦11)年

近代初期	
近代初期に使われたお金	
民部省札・大蔵省印押捺藩札(桑名藩ほか)	1869(明治2)年~
金貨・銀貨・銅貨	1871(明治4)年~
国立銀行紙幣(新券)	1877(明治10)年
日本銀行券	1885(明治18)年
道中諸入用覚帳	1882(明治15)年
五十三次日本橋	明治時代前期
東京真景図会 日本はしの繁栄	明治時代初期
人力車定価表	1887(明治20)年
呉服店 松倉屋 うちわ絵	明治時代前期
呉服店 森田 うちわ絵	明治時代前期
呉服店 宮崎屋 うちわ絵	明治時代前期
馬車 告條	明治時代初期
東京名勝銀座之通煉化石商家之図	1874(明治7)年
横浜往返鉄道蒸気車ヨリ海上之図	1874(明治7)年
toukiyow Sinagawa tetszadapwe jiyouki hatszsiya no zoe (東京品川鉄道蒸気車之図)	1873(明治6)年
鉄道乗車券(横浜~新橋)	1885(明治18)年
三井呉服店陳列場之図	1896(明治29)年
泰平海世直競漕	1885(明治18)年
蒸気船の乗船券	明治時代前期
東京両国通運会社 川蒸気往復盛栄真景之図	明治時代前期
東京品川海辺蒸気車鉄道之真景	明治時代前期
東京八ツ山下蒸気車往返鉄道之全図	1872(明治5)年
東京汐留鉄道館蒸気車待合之図	1873(明治6)年
漫画旅行日本全図 第八図	昭和時代初期
東京馬喰町三街目中屋旅亭開業図	明治時代初期
遠江国金谷宿 米札	1869(明治2)年
信濃国葭原宿 櫛切手	—

日本銀行金融研究所

貨幣博物館

電話: 03-3277-3037(直通)
 〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
<http://www.imes.boj.or.jp/cm>